

ジーシー ユニファストラボ

【禁忌・禁止】

メタクリレート系モノマー又はポリマーに対して発疹、皮膚炎などの過敏症の既往歴のある患者には使用しないこと。

【形状・構造及び原理等】

概要

- ・本材は、粉末及び液を混和（圧接、シリコンコア）法、もしくは筆積法にて混合し、暫間インレー、クラウン、ブリッジ等の作製、義歯床の修理等に用いる。

形状

- ・粉末 100g、250g（タイプB インサイザルを除く）
ラボパック 1.5kg（250g×6）
（タイプB：A2、A3、No.8／タイプF：A2、A3）
- ・液 100g（104mL）、250g（260mL）、480g（500mL）

主成分

- ・粉末：メタクリル酸エステル重合体
- ・液：メタクリル酸メチル

色調

- ・[タイプB] 8色＝A1、A2、A3、A3.5、インサイザル、
No.3、No.8、No.8 オペーク
- ・[タイプF] 3色＝A1、A2、A3

原理

- ・粉末と液を混合すると、粉末が膨潤しつつ液成分のモノマーが重合して粘性が上がり、重合硬化に至る。

特性

粉液比と室温（23℃）での硬化時間の目安は以下のとおりです。
（社内試験方法）

【タイプB】筆積法、混和法に使用

使用法	項目	特性値
混和法	標準粉液比	2g/1mL
	() 内は調整範囲	(2g/1mL～1.5g/1mL)
	硬化時間	約 5 分 00 秒

【タイプF】混和法、シリコンコア法に使用

使用法	項目	特性値
混和法	標準粉液比	2g/1mL
	() 内は調整範囲	(2g/1mL～1.8g/1mL)
	硬化時間	約 7 分 35 秒

【使用目的又は効果】

暫間インレー、クラウン、ブリッジ等の作製、義歯床の修理等に用いる。

【使用目的又は効果に関連する使用上の注意】

- 1) ポリカーボネート樹脂、ポリスルホン樹脂、ポリエーテルスルホン樹脂製義歯床へは、十分に接着しない恐れがあるので、使用を避けること。

【使用方法等】

【暫間インレー、クラウン、ブリッジ等の作製】

【筆積法】タイプBを使用します。

- 1) 通法に従い、支台歯の形成を行い、印象を採得し、石こう作業模型を作製します。
- 2) 石こう作業模型にワセリン等の分離材を塗布後、必要量の粉末と液をラバーカップ等にとり、筆積法にて本材を少量ずつ盛り上げます。
- 3) 硬化後、対合歯との咬合調整や、歯頸部の調整を研磨により行います。
- 4) 石こう作業模型から出来上がった暫間インレー、クラウン、ブリッジ等を取り外し、口腔内で試適します。

- 5) 咬合や、歯頸部の適合性が良好であることを確認後、最終仕上げ研磨を行い、仮着材等で仮着します。

【混和法】タイプB又はタイプFを使用します。

- 1) 通法に従い、支台歯の形成を行い、印象を採得し、石こう作業模型を作製します。
- 2) 石こう作業模型にワセリン等の分離材を塗布後、ラバーカップに所定量の粉末をとり、液を加え、素早くプラスチックヘラ又はセメントヘラで10～15秒間混和します。標準比率は、粉末計量器 2g の目盛に対して液計量器 1mL の目盛です。（標準粉液比：粉/液＝2g/1mL）
- 3) 混和完了後、柔らかい餅状の圧接に最適な状態で、圧接します。
- 4) 混和完了後、約 1 分 30 秒（タイプB）、約 3 分 00 秒（タイプF）で硬化が始まるため、それまでにすべての操作を完了させます。（混和法において硬化時間の遅延が必要な場合、冷蔵庫で粉末・液を 4 時間以上冷やして使用することにより、硬化時間を遅延させることができます。）
- 5) 硬化後、対合歯との咬合調整や、歯頸部の調整を研磨により行います。
- 6) 石こう作業模型から出来上がった暫間インレー、クラウン、ブリッジ等を取り外し、口腔内で試適します。
- 7) 咬合や、歯頸部の適合性が良好であることを確認後、最終仕上げ研磨を行い、仮着材等で仮着します。

【シリコンコア法】タイプFを使用します。流動性が必要な場合、1.8g/1mL程度までは調整可能です。粉液比調整（1.5g/1mL）により、タイプBも使用できます。

- 1) 通法に従い、支台歯の形成を行い、印象を採得し、石こう作業模型を作製します。
- 2) ワックスアップ後などに、あらかじめ印象採得したシリコンコアを作製します。
- 3) 石こう作業模型にワセリン等の分離材を塗布後、ラバーカップに所定量の粉末をとり、液を加え、素早くプラスチックヘラ又はセメントヘラで10～15秒間混和します。粉液比は、各タイプの所定の比率を参照してください。
- 4) 混和終了後、気泡を巻き込まないように注意しながら、素早くシリコンコアへ流し込みます。
- 5) 填入後、柔らかい餅状の圧接に最適な状態で、圧接します。
- 6) 硬化後、通法に従い研削・研磨仕上げを行います。
※重合時、気泡の発生を最小限に抑えるためには、「パーマボッドUP-Ⅲ」又は同等の性能を有する歯科技工用重合装置を使用し、0.2MPa、温水（40～50℃程度）中で10分間重合します。気泡の発生を抑えるには、加圧下重合を推奨します。重合装置なき場合は、ゴムバンド等でシリコンコアの浮き上がりや脱落がないようにしてください。

【義歯床の修理等の場合】

【筆積法】

- 1) 通法に従い、患者の義歯装着部位の印象を採得し、石こう作業模型を作製します。
- 2) 義歯床の破折箇所表面一層を削除し、新鮮な面を出します。必要に応じ、補修したい部分にジーシー デンチャープライマー等を薄く均一に塗布し、エアーにより乾燥させます。また、金属床・クラスプ等の金属被着面がある場合は、金属被着面をカーボランダムポイントなどにより研削し、新鮮面を出します。金属被着面をサンドブラスト処理し、エアーにより清掃した後、メタルプライマーZ等を塗布します。
- 3) 石こう作業模型にワセリン等の分離材を塗布し、破折した義歯床を石こう作業模型に正確に戻します。
- 4) 必要量の粉末と液をラバーカップ等にとり、破折箇所に本材を筆積法にて少量ずつ盛り上げます。
- 5) 硬化後、余剰なレジン削除し、最終仕上げ研磨を行います。

[混和法]

- 1) 通法に従い、患者の義歯装着部位の印象を採得し、石こう作業模型を作製します。
- 2) 義歯床の破折箇所の表面一層を削除し、新鮮な面を出します。必要に応じ、補修したい部分にジーシー デンチャープライマー等を薄く均一に塗布し、エアーにより乾燥させます。また、金属床・クラスプ等の金属被着面がある場合は、金属被着面をカーボランダムポイントなどにより研削し、新鮮面を出します。金属被着面をサンドブラスト処理し、エアーにより清掃した後、メタルプライマーZ等を塗布します。
- 3) 石こう作業模型にワセリン等の分離材を塗布し、破折した義歯床を石こう作業模型に正確に戻します。
- 4) ラバーカップに所定量の粉末をとり、液を加え、素早くプラスチックヘラ又はセメントヘラで 10～15 秒間混和します。標準比率は、粉末計量器 2g の目盛に対して液計量器 1mL の目盛です。(標準粉液比：粉/液＝2g/1mL)
- 5) 混和完了後、柔らかい餅状の圧接に最適な状態で、破折箇所圧接します。
- 6) 混和完了後約 1 分 30 秒(タイプB)で硬化が始まるため、それまでにすべての操作を完了させます。(混和法において硬化時間の遅延が必要な場合、冷蔵庫で粉末・液を 4 時間以上冷やして使用することにより、硬化時間を遅延させることができます。)
- 7) 硬化後、余剰なレジンに削除し、最終仕上げ研磨を行います。

[使用方法に関連する使用上の注意]

- 1) 混和法やシリコンコア法で使用する場合、各タイプの粉液比の調整可能範囲内(タイプB:粉/液＝2g/1mL～1.5g/1mL、タイプF:粉/液＝2g/1mL～1.8g/1mL)で使用する。〔設計された色調や硬化性が得られなくなる恐れがあるので、不必要に液を増やさないこと。〕
- 2) 液と粉末の混合物は、未硬化の状態で口腔内に適用する場合、硬化が完了するまでに発熱を伴うことから、温度の上昇を感じた場合には口腔外に取り外し、火傷や歯髄壊死などを起こさないように充分注意すること。
- 3) 液は揮発性を有することから、未硬化の状態で口腔内に適用する場合、鼻呼吸するよう患者に指導すること。〔吸引により、気分が悪くなる可能性がある。〕
- 4) ラバーカップ等に小分けした粉末や液は、元の容器に戻さないこと。〔粉、液の変色、変質が起こる可能性がある。〕
- 5) タイプFを筆積み法で使用した場合、硬化体の表面や辺縁が白くなり、充分硬化しない恐れがあるので使用を避けること。
- 6) 液は時間経過に伴い多少黄色くなることがあるが、品質には影響はない。
- 7) ジーシー クラウンSなどの既製の暫間クラウンを多歯に渡ってブリッジ連結する場合、完全硬化させないと剥離することがあるので、約 50℃のお湯に 5 分程度浸漬するか、又は室温で 30 分以上放置してから患者に装着すること。
- 8) 微量な量や非常に薄い厚さで使用的場合、硬化遅延する場合があるので、完全硬化をさせてから患者に装着すること。
- 9) 本材を使用した硬化物の研磨作業等の際には、粉塵による人体への影響を避けるために、局所吸塵装置、公的機関が認可した防塵マスク等を使用し、粉塵を吸入しないこと。
- 10) 液計量器で目盛を読むときは、視線を液面に水平にして、液面の最下部を読むこと。

[使用上の注意]

- 1) 使用注意(次の患者には慎重に適用すること)
 - ① 薬剤、食品、アクセサリ、化学物質等に過敏症の既往歴がある患者には、本材及び類似品に対して過敏症歴がなくても問診を行い、慎重に適用すること。
- 2) 重要な基本的注意
 - ① 本材の使用により発疹などの過敏症状を起こした患者には、使用を中止し、すぐに医師の診断を受けさせること。
 - ② 本材に対して、発疹、皮膚炎などの過敏症の既往歴のある術者は、本材を使用しないこと。また、使用により過敏症状を起こしたときは、使用を中止し、すぐに医師の診断を受けること。
 - ③ 液又は液と粉末との混合物は、直接素手で触れないこと。また、皮膚に付着させたり、目に入らないように注意すること。皮膚に付着したときは、すぐにアルコール綿などで拭いた後、流水で洗浄すること。万一目に入ったときは、すぐに多量の流水で洗浄し、眼科医の診断を受けること。
 - ④ 重合したレジンには、水中に保存し、残留モノマーを溶出させてから、口腔内に装着すること。〔過敏症を誘発する可能性がある。〕

- ⑤ 本材は可燃性であることから、火気の近くで使用したり、火気の近くに置かないこと。また、高温となる場所(ストーブの側、直射日光の当たる場所など)に放置しないこと。テーブル、床上などにこぼしたときには、すぐに乾いた布でよく拭き取ること。
- ⑥ 液は揮発性を有することから、使用する際には適切な換気(1 時間当たり数回の換気)がなされている場所で使用すること。〔溶剤が人体に影響する可能性がある〕
- ⑦ 他の製品と混用しないこと。〔製品本来の性能が得られない可能性がある。〕
- ⑧ ジーシー ユニファストⅢ及び他の常温重合レジンの粉末、液との混用(粉液の組み合わせを変えた使用)はしないこと。〔重合系の違いにより、硬化物が得られない可能性がある。〕
- ⑨ また他の常温重合レジンに使用した筆やラバーカップを本材に用いた場合でも、同様に硬化遅延等が発生する恐れがあるので、専用の筆とラバーカップを使用すること。
- ⑩ 開封後はできるだけすみやかに使用すること。〔開封後は経時変化の状況に影響を及ぼす可能性がある。〕
- ⑪ 本材は、【使用目的又は効果】に記載の用途以外には使用しないこと。
- ⑫ 本材は、歯科医療有資格者以外は使用しないこと。
- ⑬ 本材については、試験による MR 安全性評価を実施していない。(自己認証による)*

[保管方法及び有効期間等]

[保管方法]

- ・本材は火気厳禁の冷暗所に保管し、一つの保管庫に大量に保管しない。
- ・高温となる場所(ストーブの側、直射日光の当たる場所など)を避けて保管する。
- ・保管する場所には、消火装置を備えること。
- ・本材は、歯科の従事者以外が触れないように適切に保管・管理する。
- ・容器は、使用后すぐに密栓する。
- ・粉末、液を詰替えて使用する場合は、ボトルのキャップを確実に締める。

[有効期限]

本材は、包装に記載の使用期限*までに使用する。

※(例 EXP. 2028-06 は
使用期限 2028 年 6 月 を示す。)

[製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等]

製造販売元 : 株式会社ジーシーデンタルプロダクツ
主たる設計元 : 株式会社ジーシー

発売元 : 株式会社ジーシー
住所 : 〒113-0033
東京都文京区本郷3丁目2番14号
電話番号 : (お客様窓口) 0120-416480